

目次

1	ねりまビッグバン事業概要	1
(1)	ねりまビッグバンとは	1
(2)	事業の特徴	1
(3)	事業スキーム	1
2	谷原地域の取り組みと実績	2
(1)	取り組みの内容	2
(2)	実績	5
3	光が丘地域の取り組みと実績	8
(1)	取り組みの内容	8
(2)	実績	10
4	事業に関わった方々の声	14
	谷原地域の参加者から	14
	光が丘地域の参加者から	15
	区若手職員サポーターから	15
5	まとめ	
(1)	取り組みの成果	16
(2)	今後の課題と支援のあり方	18

1 ねりまビッグバン事業概要

(1) ねりまビッグバンとは

広範な区民の参加と協働を進めるため、区民が「まちを元気にするアイデア」を持ち寄り、地域のニーズや課題は何か、自分たちに何ができるかを話し合い、実現に向けて活動する提案実行型の区民協働事業として、平成27年度に開始した。

区は、平成28年4月に新設した協働推進課を中心に、全庁から若手職員が参加し、区民の活動を支援した。

(2) 事業の特徴

ア 2つのモデル地域を選定

本事業を行う地域として、以下の理由から練馬区内のうち谷原および光が丘の2つの地域を選定し、3年間を目途に事業を試行することとした。

モデル地域	選定理由
谷原地域	年齢層や、近年の転入者と従来からの居住者の割合などの住民構成、人口密度、交通網等の地域特性が練馬区の平均的な値であることから選定。
光が丘地域	開発後に新たに転入した住民が大半を占め、住居のほとんどが集合住宅である地域の特性が、谷原地域と対比できるため選定。

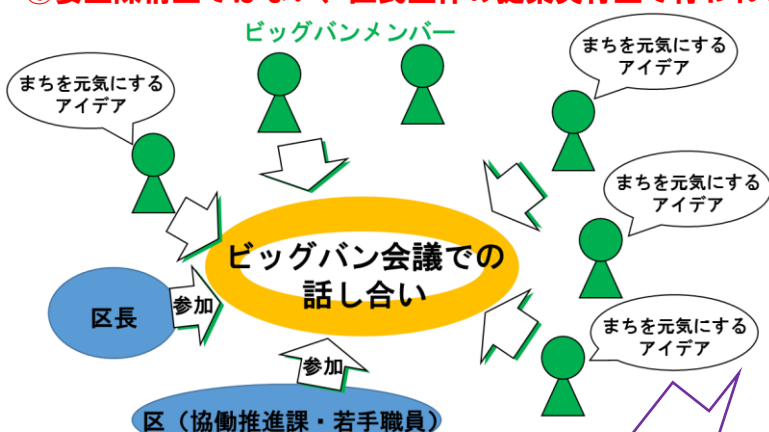
地域選定後、平成27年10月～12月、谷原および光が丘地域にて地元住民と区長による話し合いを実施。以降、2つの地域でそれぞれの取り組みを進めることとした。

イ 区若手職員の動員

区民本位で仕事に取り組める職員の育成のため、各地域3名ずつ、区若手職員がサポーターとして事業に参加し、会議の進行や資料作成、イベント運営等の事業推進に携わった。

(3) 事業スキーム

① 要望陳情型ではない、区民主体の提案実行型で行われる企画会議



② メンバーによるアイデアの事業化 地域住民や団体を巻き込み、広げていく！



2 谷原地域の取り組みと実績

(1) 取り組みの内容

ア 活動期間

平成27年12月～平成30年7月

イ 主な活動地域

富士見台、南田中、高野台、
谷原、石神井町1丁目等

ウ 参加者

町会・自治会、青少年育成地区委員、民生委員、老人クラブ、
「地域福祉パワーアップカレッジねりま」卒業生、地域活動団体等の様々な分野から、
まちを元気にするアイデアを持った人材が集まった。



氏名（敬称略）	住所
海野 真幸	高松 3
伊知地 哲男	富士見台 1
鹿子嶋 早苗	富士見台 1
伊藤 規志子	富士見台 3
杉山 栄子	富士見台 4
栗和田 博之	南田中 2
平賀 一郎	高野台 1
長野 留美子	高野台 3
志村 雅	谷原 3
藤本 小夜子	谷原 6
加藤 眞一	石神井町 1
小屋松 一子	石神井町 1

※掲載は住所順

Ⅰ 話し合いの経過

谷原のまちをさらに元気にするための取り組み内容を検討

第1回（平成27年12月12日）	区長とまちを元気にするアイデアを話し合い
第2回（平成28年1月29日）	谷原地域の魅力を発見
第3回（2月26日）	アイデアの確認、ビッグバンの趣旨説明
第4回（3月30日）	当面の活動内容を協議
第5回（4月14日）	今後の方向性について

第1回見本市開催に向けた議論と事前準備

第6回（平成28年4月27日）	谷原地域の活動案の提示（見本市）
第7回（5月12日）	日時・概要決定
第8回（6月17日）	募集要項決定
第9回（7月12日）	チラシ配布状況報告
第10回（7月27日）	参加団体説明会に向けて
第11回（8月9日）	見本市当日の役割分担等
第12回（8月19日）	参加団体募集状況確認・報告
第13回（8月30日）	見本市当日の進行について 来場者アンケートについて
第14回（9月6日）	直前打合せ

**平成28年9月9日（金）～11日（日）
「地域活動見本市in街かどケアカフェこぶし」開催！**

「もっと団体同士の交流を！」 見本市参加団体交流会の実現に向けて

第15回（平成28年12月7日）	見本市の振り返り
第16回（平成29年2月28日）	今後の活動について
第17回（3月10日）	交流会開催に向けた打合せ
第18回（4月10日）	当日の進行について

**平成29年4月15日（土）
団体同士の交流と谷原地域の活性化を考える
「地域活動見本市in街かどケアカフェこぶし
参加団体交流会」開催！**

**団体同士の交流を強化！
「第2回地域活動見本市」開催に向けて**

第19回（平成29年5月10日）	第2回見本市開催に向けた打合せ
第20回（5月30日）	第2回見本市の目標、日程の検討
第21回（6月28日）	スケジュール確認、参加団体について
第22回（7月14日）	参加団体募集の準備について
第23回（9月15日）	参加団体募集申込状況確認・報告
第24回（10月4日）	事前準備の進捗状況確認・報告
第25回（10月25日）	当日の役割分担等、周知について
第26回（11月10日）	直前打合せ、見本市当日の進行について

**平成29年11月18日（土）～19日（日）
「第2回地域活動見本市in街かどケアカフェこぶし」開催！**

**谷原地域の魅力を可視化！
「谷原地域活動マップ」の作成に向けて**

第27回（平成29年12月6日）	第2回見本市反省会・マップ作成について
第28回（平成30年3月19日）	地域活動マップ披露会の準備
第29回（4月25日）	最終稿確認・披露会当日の役割分担等

**「谷原地域活動マップ」完成！
平成30年4月発行 発行部数：10,000部**

**平成30年5月25日（金）
「谷原地域活動マップ披露会」開催！**

今までの取組のまとめ

第30回（平成30年7月6日）	今までの活動の振り返り
第31回（7月31日）	最終回、報告書の確認

(2) 実績

ア 地域活動見本市in街かどケアカフェこぼし

① 概要

地域の団体同士が交流、情報交換できる機会づくりと、地域住民に地域で活動する様々な団体の魅力を知ってもらうため、谷原地域の団体を対象に地域活動見本市を開催した。

② 開催日時・場所

平成28年9月9日(金)～11日(日) 10時～16時
街かどケアカフェこぼし (練馬高野台駅前地域集会所内)

③ 実施内容

パネル展、ステージ発表、ワークショップ、物販

④ 参加団体数

35団体

⑤ 動員数

560名 (3日間合計)

⑥ 参加者の声

- ・地域を知ること、地域の団体がつながることができ、住民自ら谷原地域を暮らしやすい街にしていくためのよい取り組みだと感じた。
- ・NPOからサークルまで幅広い展示が出会いのきっかけになっていると感じた。このような場や展示はとても貴重。今後の団体同士の連携が楽しみ。
- ・地元について知らないことが多いものだと感じた。ぜひ継続して見本市を催してもらいたい。
- ・内容が片寄ることなく様々な分野の団体が参加しており良い事だと思った。

地域活動見本市
in 街かどケアカフェこぼし
9月9日(金)～9月11日(日) 10:00～16:00
参加団体 (パネル出展・ステージ発表)
① 谷原地区まちづくり協議会 ② 谷原地区まちづくり協議会 ③ 谷原地区まちづくり協議会 ④ 谷原地区まちづくり協議会 ⑤ 谷原地区まちづくり協議会 ⑥ 谷原地区まちづくり協議会 ⑦ 谷原地区まちづくり協議会 ⑧ 谷原地区まちづくり協議会 ⑨ 谷原地区まちづくり協議会 ⑩ 谷原地区まちづくり協議会 ⑪ 谷原地区まちづくり協議会 ⑫ 谷原地区まちづくり協議会 ⑬ 谷原地区まちづくり協議会 ⑭ 谷原地区まちづくり協議会 ⑮ 谷原地区まちづくり協議会 ⑯ 谷原地区まちづくり協議会 ⑰ 谷原地区まちづくり協議会 ⑱ 谷原地区まちづくり協議会 ⑲ 谷原地区まちづくり協議会 ⑳ 谷原地区まちづくり協議会 ㉑ 谷原地区まちづくり協議会 ㉒ 谷原地区まちづくり協議会 ㉓ 谷原地区まちづくり協議会 ㉔ 谷原地区まちづくり協議会 ㉕ 谷原地区まちづくり協議会 ㉖ 谷原地区まちづくり協議会 ㉗ 谷原地区まちづくり協議会 ㉘ 谷原地区まちづくり協議会 ㉙ 谷原地区まちづくり協議会 ㉚ 谷原地区まちづくり協議会 ㉛ 谷原地区まちづくり協議会 ㉜ 谷原地区まちづくり協議会 ㉝ 谷原地区まちづくり協議会 ㉞ 谷原地区まちづくり協議会 ㉟ 谷原地区まちづくり協議会 ㊱ 谷原地区まちづくり協議会 ㊲ 谷原地区まちづくり協議会 ㊳ 谷原地区まちづくり協議会 ㊴ 谷原地区まちづくり協議会 ㊵ 谷原地区まちづくり協議会 ㊶ 谷原地区まちづくり協議会 ㊷ 谷原地区まちづくり協議会 ㊸ 谷原地区まちづくり協議会 ㊹ 谷原地区まちづくり協議会 ㊺ 谷原地区まちづくり協議会 ㊻ 谷原地区まちづくり協議会 ㊼ 谷原地区まちづくり協議会 ㊽ 谷原地区まちづくり協議会 ㊾ 谷原地区まちづくり協議会 ㊿ 谷原地区まちづくり協議会



イ 地域活動見本市in街かどケアカフェこぶし参加団体交流会

① 概要

第一回地域活動見本市の参加団体同士の交流を深め、谷原地域の住みよいまちづくりに向けたアイデアを話し合う機会とする。

② 開催日時・場所

平成29年4月15日(土) 18時～19時30分
街かどケアカフェこぶし (練馬高野台駅前地域集会所内)

③ 参加団体数

9団体 (14名)

④ 実施内容

- ・第1回見本市来場者アンケート結果紹介
- ・参加団体紹介
- ・住みよいまちづくりに向けたアイデア出し
⇒見本市継続実施への要望を確認!



ウ 第2回地域活動見本市in街かどケアカフェこぶし

① 概要

第1回に引き続き、地域住民に様々な団体について知ってもらうこと、団体同士の交流をさらに促進するため、第2回見本市を開催し、同日に参加団体交流会を開催することとした。

② 開催日時・場所

平成29年11月18日(土) 10時～16時
11月19日(日) 10時～14時45分
街かどケアカフェこぶし (練馬高野台駅前地域集会所内)

③ 実施内容

パネル展、ステージ発表、ワークショップ、参加団体交流会

④ 参加団体数

39団体

⑤ 動員数

530名 (2日間合計)

⑥ 参加者の声

- ・実に様々な活動がこの街にあるのだなと思った。こども食堂や子育て支援の団体に関心を持たた。
- ・このような場所と空間があって良かった。ただ夜の20～21時くらいまで開いてもらうと助かる。
- ・第1回よりパワーアップしていて、ステージ楽しかった。パネル展示も参考になった。



エ 谷原地域活動マップ

① 概要

第2回地域活動見本市でつながった地域団体の情報を可視化し、マップ化することで団体同士のつながりをさらに深めるとともに、より多くの地域住民に地域の団体を知ってもらうツールとすることを目的し、「谷原地域活動マップ」を作成。完成後、掲載団体を集めた披露会を開催し、マップを配布した。

② マップ作成スケジュール

- 平成29年11月 掲載団体原稿出し
- 平成29年12月 デザイン・台割り決め
- 平成30年2月 校正作業
- 平成30年3月 校了・印刷
- 平成30年4月 発行

③ マップ完成披露会の開催

i) 開催日時・場所

平成30年5月25日(金) 18時30分～20時30分
街かどケアカフェこぶし(練馬高野台駅前地域集会所内)

ii) 内容

マップの説明、掲載団体紹介、交流会

iii) 参加団体数(参加人数)

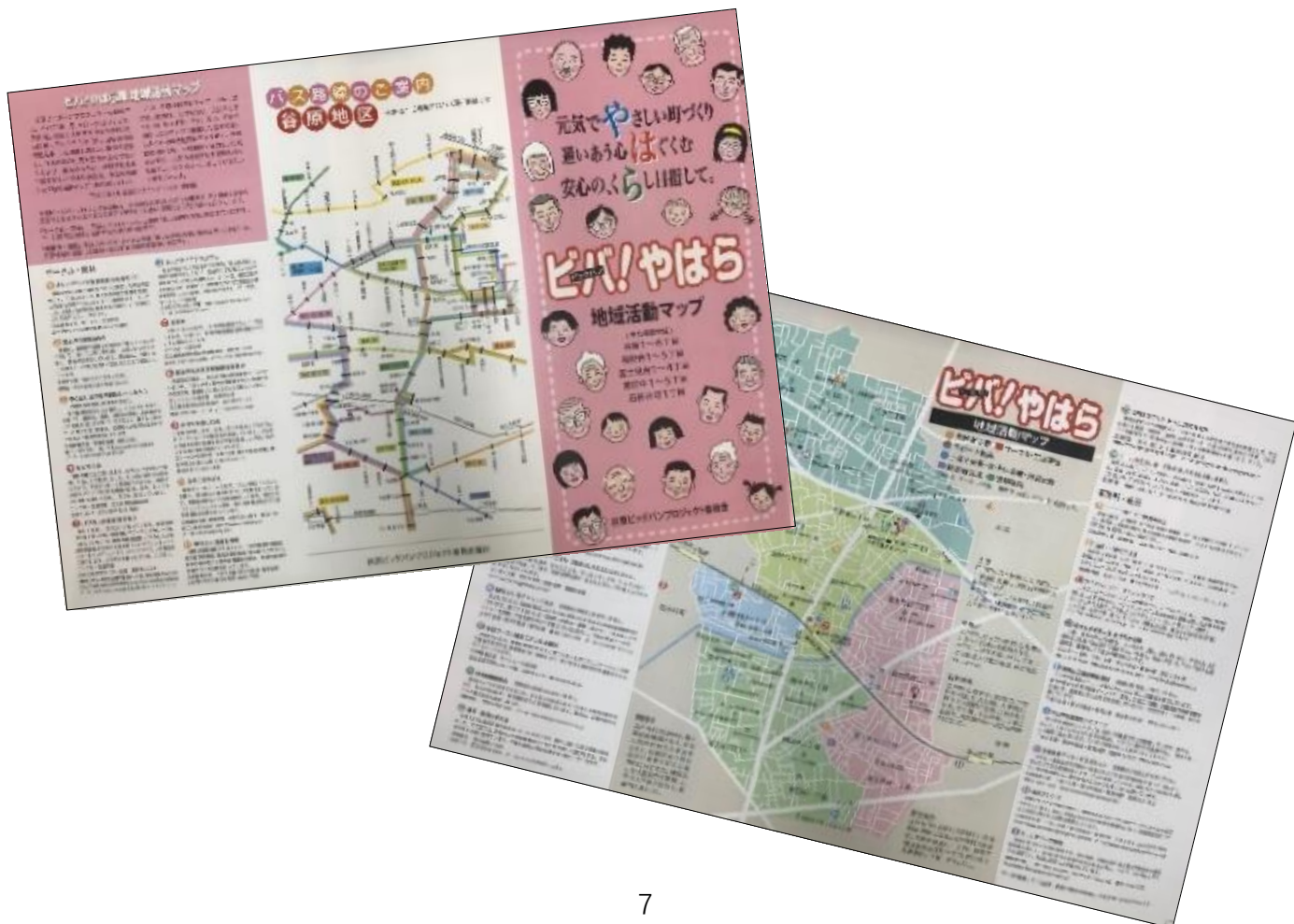
22団体(35名)

④ マップの配布

i) マップに掲載した全33団体に配付

ii) 谷原地域の地域集会所等、公共施設にて配布

iii) 谷原地域の町会、飲食店、病院その他事業所等にて配布



3 光が丘地域の取り組みと実績

(1) 取り組みの内容

ア 活動期間

平成27年10月～平成30年7月

イ 主な活動地域

光が丘1～7丁目

ウ 参加者

町会・自治会、民生委員、地元企業、NPO、「地域福祉パワーアップカレッジねりま」卒業生等の様々な分野からまちを元気にするアイデアを持った人材が集まった。



氏名（敬称略）	住所
堀井 剛	光が丘1
今田 裕子	光が丘2
小山 謙一	光が丘2
明石 雅史	光が丘3
荒川 直美	光が丘3
小川 義夫	光が丘3
武藤 正子	光が丘3
芹沢 考子	光が丘5
増田 健一	光が丘6
根来 佳代子	光が丘7
山本 文雄	光が丘7

エ 話し合いの経過

※掲載は住所順

誰もが住みやすい街光が丘を目指して、取り組み内容を検討	
第1回（平成27年10月24日）	区長とまちを元気にするアイデアを話し合い
第2回（11月25日）	アイデアの確認、ビッグバンの趣旨説明
第3回（12月21日）	光が丘の基礎データを紹介、地域の魅力を協議
第4回（平成28年1月28日）	当面の活動内容を協議

認知症講演会に向けて、加速する議論

第5回（平成28年2月28日）	認知症講演会のテーマ、実施方法を協議
第6回（3月29日）	講演会の企画具体案を協議
第7回（4月18日）	講演内容の検討
第8回（5月23日）	周知チラシの検討
第9回（6月27日）	進行案や会場配置の検討
第10回（7月8日）	当日の役割分担等
第11回（7月25日）	当日プログラム、アンケート等の確認

平成28年8月6日（土）
誰もが住みつけたいまち 支え合うまち「光が丘」を目指して！
「認知症を知ろう講演会」開催

新たな取り組みは「地域の子育て世代」への支援へ！

第12回（12月12日）	今後の方向性、取組内容について
平成29年1月27日（金） 「子育てから見る光が丘の未来」勉強会開催	
第13回（3月22日）	プレ・ビッグバン振り返り、今後の方向性
第14回（9月11日）	新事業「私らしくハタラク」の提案
第15回（10月5日）	ワークショップの周知について

平成29年11月21日（火）
私らしい働き方とは？課題は？当事者同士で話し合おう！
第1回「私らしくハタラク」ワークショップ開催

第16回（12月1日）	第1回WS報告、第2～3回開催について
第17回（平成30年1月11日）	第2,3回WSチラシ配布、当日の案内

平成30年2月9日（金）
世の中の様々な「働き方」について、ゲストスピーカーからお話を聞こう！
第2回「私らしくハタラク」ワークショップ開催

平成30年2月16日（金）
地域の子育て世代には何が必要で自分達には何ができるか考えよう！
第3回「私らしくハタラク」ワークショップ開催

今までの取組のまとめ

第18回（6月27日）	今までの活動の振り返り、まとめに向けた話し合い
第19回（7月20日）	最終回、報告書の確認

(2) 実績

ア 「認知症を知ろう講演会」

① 概要

光が丘の理想のイメージを「年をとっても安心して住める街」とし、「認知症になっても住んでいいんだと思える街」をコンセプトに、「医師による講演」と「認知症当事者の体験談」の2本立てで講演会を実施した。

② 開催日時・場所

平成28年8月6日（土）18時30分～20時30分
光が丘区民ホール

③ 参加者数

287名/定員300名

④ 参加者の声

- ・身近に接しないと分からない事が多い。この様な会を沢山開催してほしい。知らない事が怖い事だと思う。
- ・参加者多く、光が丘は認知症に対する関心が高いことを知り安心した。
- ・認知症の家族の方のお話は、現実的な話で良かった。



イ 「子育てから見る光が丘の未来」勉強会

① 概要

「認知症を知ろう講演会」終了後、参加者同士で今後の方向性について協議し、まちを元気にするアイデアとして次は「子育て」分野にチャレンジすることを決定。「子育てから見る光が丘の未来」をテーマに、昨今の働き方の変化や光が丘地域における子育ての現状を考える情報交換会を実施した。ゲストには地域活動団体や区担当課、光が丘に在住の区民を迎え、ゲストトークやフリートークを行った。

② 開催日時・場所

平成29年1月27日（金）18時～20時
光が丘区民センター集会洋室

ウ 「私らしくハタラク」シリーズ

① 概要

勉強会終了後、地域を元気にするアイデア第2弾として、光が丘ビッグバン参加者から本企画の提案があり実現。光が丘地域の子育て世代が抱える課題として、子育てしながら地域で働くことの難しさを捉え、当事者同士が集まり「私らしい働き方」について考えるワークショップを3回にわたって開催した。



② 第1回ワークショップ

- i) 開催日時・場所
平成29年11月21日（火）
10時～11時30分
光が丘区民センター集会室
- ii) 参加者数
8名/定員15名
- iii) ワークショップ内容

私らしい働き方とは何か、私らしく働くための課題は何か等、2つのグループに分かれてそれぞれ話し合い、参加者の思いや考えを付箋に書き出し、発表し合った。



③ 第2回ワークショップ

i) 開催日時・場所

平成30年2月9日(金) 10時～11時30分

光が丘区民センター

ii) 参加者数

15名/定員15名

iii) ワークショップ内容

働き方改革やママ達によるワークシェアリング等、現代における様々な働き方について、各方面からゲストを呼び、話を聞いたほか、ゲストと参加者とのフリートークを行い、様々な働き方についての知識・見聞を深める機会とした。



④ 第3回ワークショップ

i) 開催日時・場所

平成30年2月16日(金) 10時～11時30分

光が丘区民センター

ii) 参加者数

11名/定員15名

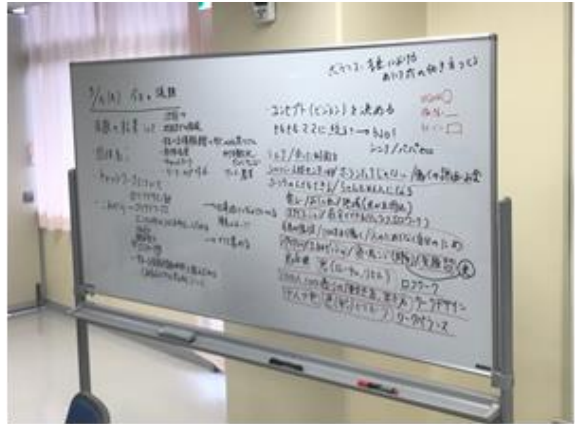
iii) ワークショップ内容

第1回、第2回ワークショップをふまえ、改めて光が丘地域の子育て世代には何が必要で、自分たちに何ができるかを話し合い、その結果と今までのワークショップについてまとめた成果物(チラシ)の作成ワークショップを行った。



エ 新団体の結成

平成29年度に行ったワークショップ「私らしくハタラク」シリーズに参加した光が丘地域のママ達の中で、地域の子育て世代のために活動をする思いを持った有志数名にて新たな団体「イロドリ」を結成。メンバーの得意分野を活かした事業（親子プログラミング講座）の試行や、取組を紹介するチラシ作成等の活動を始めている。



谷原地域の参加者から

地域活動見本市について

- ・自分自身、谷原地域に住んでいるため、地元の活動団体を知ることができ良かった。
- ・自身の団体も見本市に参加することで、団体の理念である聴覚障害の理解が広がられたこと、他分野の団体とつながれたことに大きな成果を感じる
- ・今後もマップが地域に残るため、引き続き配付場所を増やす等していきたい
- ・同じ活動分野同士の団体同士が連携を広げる活動が今後必要と感じる
- ・マップという形で目に見える成果物ができたことに喜びを感じる
- ・地域における「共助」は難しいことだが、見本市を通じて形になったと感じる
- ・「他ではないこと」「次につながること」「自分たちでできること」をコンセプトに見本市が実現した
- ・見本市で集まった団体が、今後も「自分ごと」として羽ばたくこと、つながっていくことを望む
- ・見本市でできた団体同士がつながり、地域に波及したことに大きな意義を感じる
- ・見本市の準備～当日は区のサポートが大きかった。本当は自分たちでやっていくべきことだと感じる。
- ・区とともに地域の現場で活動できる嬉しさを感じる。

ビッグバンの取り組みについて

- ・今まで町会の活動を主に行ってきたが、ビッグバンのおかげで活動の幅が広がった。
- ・今までの見本市等の取組で積み重ねてきたものを今後もつなげていきたい
- ・ビッグバンで学んだことや課題を自分の団体に持ち帰り、今後の活動に活かしていきたい
- ・地域は1～2年では元気にならない。この先10年を見据えた取り組みが続くことを望む。
- ・区とともに地域の現場で活動できる嬉しさを感じる。
- ・自分の居場所と、地域みんなの居場所を作りたくてビッグバンに参加した。
- ・ビッグバンメンバーや見本市参加団体の地域に対する思いの強さ、熱心さがわかった。
- ・地域の各分野の活動団体と知り合えて、いろいろな考え方を学んだ。
- ・ビッグバンの中で自分の役割がある喜び、帰属意識が大きかった
- ・ビッグバンの活動を通じて、自分の所属団体と地域とのつながりを考える良い機会になった。ビッグバンに関わった団体が今後発展していくことを願っている。
- ・地域の団体を知ってもらい、広げることに意味を感じ、その思いを忘れず活動してきた
- ・発足当初のアイデア出しでは、メンバーのいろいろなアイデアや思いが知ることができて良かった
- ・アイデアを自分たちで実現することは大変なことと感じる。辛い時もあったが、充実していた
- ・個人としての参加である以上、他の地域活動団体の運営や家庭その他の事情により、メンバーの増減や会議への出席回数にムラが生じること等が課題と感じる

光が丘地域の参加者から

「認知症を知ろう講演会」について

- ・認知症を知ろう講演会は、ビッグバンメンバーと地域住民の協力により、手際良く事業を作り上げることができ、改めて光が丘のポテンシャルに気付かされた。
- ・講演会については、やったきり次に続かなかったことが反省点。次のステップにつながればなお良かった。
- ・区後援であることの安心感と、事前周知を精力的に行ったことで参加者多く、大成功であったと思う。また認知症に対する関心の高さがわかったため、継続した取り組みができればなお良かったと思う。
- ・認知症講演会について、高齢者はもちろん若い人まで、会場を満席にするほど人を集められたことに驚いている。認知症当事者の参加に大きな意義があったと感じる。
- ・区若手職員サポーターのやる気と、地元の協力、講師の人柄等がマッチして大成功だったと思う。会場全員が一体となり良い雰囲気での講演会であった。

「私らしくハタラク」シリーズについて

- ・「私らしくハタラク」における若い親たちの取り組みは、自分の発想とは異なっていて、とても勉強になった。
- ・ビッグバンに参加して、若い世代の地域への想いが予想を超えて大きな事を知ることができた。ここから異なる世代ができることを掛け算して光が丘らしい取り組みが始まることを期待する。

ビッグバンの取り組みについて

- ・「地域福祉パワーアップカレッジねりま」で学んだことや経験を活かそうと思い参加したが、自分がどれだけ地域に貢献できたか疑問に思う。もう少し頑張れたのではと感じる。
- ・谷原ビッグバンの取り組みにも関わってみたかった。谷原地域活動マップは画期的なアイデアだと思う。
- ・「自分たちで考え、何も無いところから形を生み出す」ということは、難しいことだと感じた。
- ・ビッグバンに参加し、いろいろな人と知り合えたことが財産である。
- ・これまで地域活動とは無縁の生活であったが、今回参加して、地域の様々な取り組みを知ることができて良かった
- ・病院や公園、学校や介護施設など充実している光が丘地域の中で、先を見据えた課題や問題を見つけ出すパワーを持った方がいることに気づいた。今後も他地域より先取りした考えを生み出せ得ると感じる。
- ・光が丘は恵まれているので、何かをやる必要性を感じにくい。
- ・区若手職員サポーターの活躍に感謝している。
- ・2か年で異なる2つのテーマをやり遂げたことが大きな成果
- ・地域には優秀な方々が大勢いる。この人たちが活躍できる仕組みを構築できるとなお良い。

区若手職員サポーターから

ビッグバンの取り組みについて

- ・話し合いを重ねるたびに参加者の士気の高まりを感じられ、地域に対する思いの強さに感銘を受けた。
- ・多くの区民の声や考えを聞く経験はなかなかできないことであり、多くのことを学べる機会となった。
- ・各回の進行や資料作成等を行う中で、参加者の意見をまとめることの難しさや事業を実現するために動くことの大変さを学んだ。
- ・区民と共に事業を作り上げていくことにやりがいを感じながら参加することができた。
- ・様々なアイデアが出る一方、実現可能なものを話し合う過程で当初の提案内容がぶれてしまうことがあり、本事業の課題であると感じた。
- ・サポーターという立場から、どこまで協力するのかの距離感がつかめないことがあった。
- ・地域には様々な課題があり、それに対して思いを持った区民が多くいることがわかった。多くの区民や団体と知り合うことができ、話をした経験を今後の職務に活かしたい。

5 まとめ

(1) 取り組みの成果

ねりまビッグバンでの谷原・光が丘の2地域での取り組みは、今後、多くの区民が参加から協働へ踏み出していくために区が取り組むべき、様々な施策の企画、実施に寄与する、つぎの成果があった。

ア 谷原

谷原地域では、活動団体を地域に広めるとともに、団体同士のネットワークを横に広げる水平展開型の取り組みを方針とした。運営は「地域活動見本市」（以下、「見本市」という。）の開催に向けた実行委員会形式を採った。区若手職員は、実行委員会の一員としての参加を通じて、区民と区が協働して事業を推進する実体験を積む機会を得ることができた。

①地域の現状と課題の顕在化

参加者同士の議論や、見本市開催時に交流した団体等との話し合いを通じて、「一つの団体だけでは、活動の社会的意義や目的等を一般に普及するのは難しい」、「団体同士が交流するきっかけは思ったより少ない。同一の地域を活動範囲にしているにもかかわらず協働には至らない」等、地域のリアルな現状や課題への理解を深めることができた。

これらの意見等は、平成30年6月に公表した「グランドデザイン構想」策定の際、「区民参加と協働」分野の柱である、地域に根差した区民の自主的な活動に対する支援のあり方を検討するための参考となった。

②地域の団体同士の交流の活性化

見本市の企画にあたり、地域の団体同士の交流を深めることを大きな目的として掲げ、第1回見本市参加団体交流会、第2回見本市同日に行った交流会、また谷原地域活動マップ披露会等、団体同士が顔を合わせ、交流できる機会を積極的に提供してきた。結果、今まで接点が無かった団体同士が顔の見える関係となり、多方面での協力・連携に発展するケースがみられた。このことは、谷原地域の活性化に寄与したといえる。

③区施策事業の充実

見本市は、参加者の発意により、ステージパフォーマンス、ワークショップなど、来場者参加・体験型の工夫を凝らした内容で実施し、各回とも盛況であった。一般的な講座や展示のみのイベントに比べ、地域活動団体の実際の取り組みを体感しながら理解できる形式での催しの有効性を実証できた。

これにより、本件スキームを参考に平成29年2月に初開催した、地域活動フェスティバル「練馬つながるフェスタ」は、多くの区民や団体から好評を博し、以降、継続実施する施策事業として位置づけることができた。

また、3年目に発行した「谷原地域活動マップ」は、地域団体の情報を可視化し、団体同士のつながりを深めることと、地域住民に地域の団体を知ってもらうためのツールとして、使いやすく、画期的なアイデアであった。

これを参考とし、区では「練馬区こども食堂マップ（平成30年8月発行）」を作成した。

イ 光が丘

光が丘地域では、わがまちの課題として住民が賛同できるテーマを都度設定し、当該テーマ発案者をリーダーとするプロジェクトチーム型で垂直展開型の取り組みを方針とした。具体的には、1年目は「認知症になっても暮らし続けられるまち」、2年目は「子育てしやすいまち」をテーマにワークショップ等を開催し、住民のリアルなニーズや意見を探った。区若手職員は、イベント企画・運営等のサポートを通じて、異なる立場、組織に属する者同士が議論しながら目標達成に近づいていく経験を積む機会を得ることができた。

①地域に根差した活動に取り組む区民の顕在化

2年目に実施した「私らしくハタラク」シリーズでは、ワークショップの終了後、当初は受講者として参加し、地域活動の経験や、それまで面識が無かった子育て中の母親同士が、主体的に団体を結成した。ビッグバンの参加者が課題と考えたことが、他の区民にも共有され、小さいながらも地域のムーブメントに発展した好事例となった。

この事例は、「ランドデザイン構想」策定の際、地域に潜在する、「地域の課題を自分ごとと考え、自ら解決に取り組む意欲ある区民」が持つ意欲やパワーを発揮しやすい仕組みづくりの方向性を検討するために活用された。

②区施策事業の充実

1年目に実施した認知症をテーマとした講演会の企画では、一般的な高齢者の問題ではなく、「光が丘に住み続けるためには？」を基本コンセプトとし、地域の実態に即した、来場者がより「自分ごと」として関心が持てる催しとするため、地元で開業する医師、地域で暮らす認知症のある方やご家族等の当事者団体に協力を要請した。また、資金調達や、地域の関係者にどのように周知するか等開催に向けての課題となった事柄の解決に向けて、地域のボランティア団体や民生委員等と連携し、ノウハウを借りることで、自分達だけでは難しい充実した規模、内容で実現することができた。

この取り組みは、地域で活動する多様な活動主体が、自らの「強み」を活かしたアイデアを具現化するとともに、区や他の団体等と協働して解決に向けた障壁を乗り越える取り組みを事業企画として提案する「地域おこしプロジェクト」を、平成29年度から新たに事業化するための参考となった。



(2) 今後の課題と支援のあり方

ビッグバンにおける3年間の取り組みから、区民の参加と協働の推進に向けた今後の課題や支援のあり方について、以下のことが明らかとなった。

ア 活動に取り組む人材

① 多くの区民を巻き込む活動に発展することの難しさ

当初の参加者の所属団体や組織等のつながりだけで広範な区民の参加を促すことは困難
→地域を巻き込むためには、まだ活動を始めていない区民の参加を促す仕組みが必要。

② 活動への専門知識等を持った人材の必要性

アイデアの具現化には、知識や経験があり補助できる人材が必要。
→例えば谷原地域での取り組みでは、団体同士の交流会をファシリテーションできる専門性を持った人材を、地域住民の中から見出し、巻き込んだ。

イ アイデアの具現化に必要な活動基盤等の充実

アイデアや人材が揃っても、会議や事業の開催場所、活動資金等が不足する。新たな取り組みを軌道に乗せ、地域に定着させるためには、活動基盤の充実に向けた支援が必要。

→活動場所の確保や活動資金の一助となる使いやすい補助金等の仕組みづくりが求められる。

ウ 地域特性をふまえた支援のあり方

谷原および光が丘の2地域いずれも当初は、「まちを元気にする」という同じコンセプトで開始した。

ところが、谷原は見本市をきっかけに団体同士の連携を広めていく水平展開、光が丘は高齢者、子育てと分野別にテーマを絞り、地域のキーパーソンをリーダーにする垂直展開と、地域ごとに進め方の方向性が大きく異なり、区の関わり方も地域ごとに対応していく必要があった。

→地域の実態や多様性に柔軟に対応した支援が必要。

「まちを元気にするアイデア」を具現化するためには、地域の課題をわが事と考え、解決に向けて取り組む区民や団体の自由な発想を活かすとともに、より広範な区民を巻き込む仕組みづくりを、区もともに考えなければならない。また、活動基盤の充実に向け、人材や活動拠点、資金、情報提供といった各種の支援のうち、場面に応じた効果的な対応を都度、選択しながら、地域の実情や区民、団体の状況に応じた柔軟な支援が必要であることがわかった。

区は、ねりまビッグバンにおける3年間の取り組みで得た成果と課題を、今後の計画立案や区民協働事業の展開に活かし、住民主体によるまちを元気にする取り組みが、区内の至るところ、様々な区民、団体に広がっていくことを目指していく。

「ねりまビッグバン」の取り組み

平成30年（2018年）8月

発行 練馬区地域文化部協働推進課

〒176-8501

練馬区豊玉北6-12-1 練馬区役所本庁舎9階

電話 03(5984)1247 FAX 03(3557)1351

メール kyodosuishin@city.nerima.tokyo.jp